

シカを絡め獲るくくりわな補助具の開発

～くくりわなで捕獲したシカを安全・迅速に殺処分できます～

小出哲哉（愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫研究室）

【平成30年5月8日掲載】

【要約】

くくりわなは立ち木が無いと設置できず、さらに、捕獲したシカが暴れ、殺処分に危険を伴う。そこで、立ち木の無い所にも容易に設置でき、安全に殺処分できるくくりわな補助具「からまる棒」を開発した。「からまる棒」に杭を3本打つことで立ち木に替わる構造物となり、立ち木の無い農地にもくくりわなが設置できる。くくりわなに捕まったシカが動き回ると、わなのロープが「からまる棒」に巻き付いて身動きできなくなり、安全・迅速に殺処分ができる。

1 はじめに

愛知県では野生鳥獣による農作物被害は甚大で、中でもニホンジカ（以下「シカ」という。）による被害割合が大きく、早急な対策が必要である。

シカ被害対策として本県山間部では、安価で扱いやすいくくりわなが広く使用され効果を上げている。くくりわなはロープの先端の輪に踏み込んだ野生動物の足を捕捉するが、立ち木が無い農地には設置できず、さらに捕獲したシカが暴れ、殺処分に危険を伴うため、農業者には普及していない。

このため、立ち木が無くても設置でき安全に殺処分できるよう、農業総合試験場は、くくりわな補助具「からまる棒」※をアイワスチール（株）と共同開発したので紹介する。

※特許出願中（特願2015-182560、ロープ固定具）

2 構造

「からまる棒」は3本のパイプと4個のU字型フックから成り、大きさは底辺（足の幅）80cm、高さ48cmで、重さは10kgである（写真1）。パイプに工事用の杭（「くい丸®」等）を通して地面に打ちつけることで、しっかり固定できる。くくりわなのロープの端を「からまる棒」に結束することで、立ち木のない場所にわなを仕掛けられる（図1）。

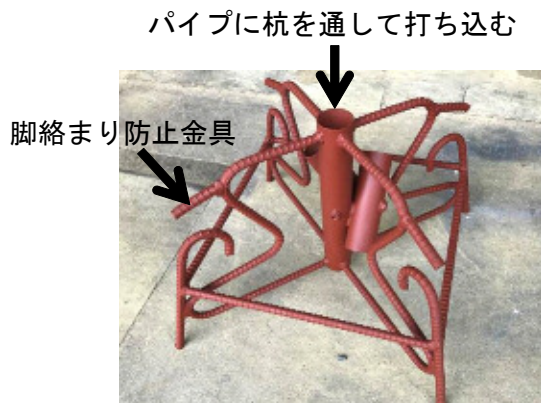


写真1 からまる棒の構造

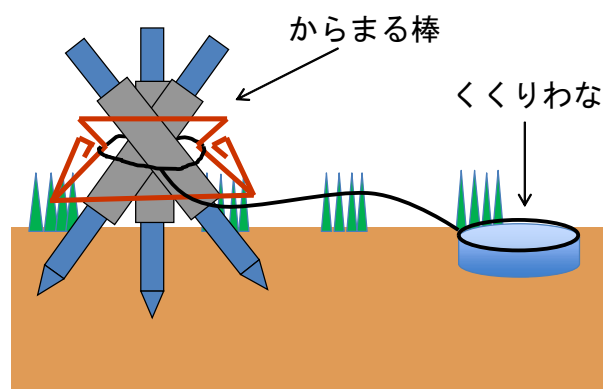


図1 からまる棒の模式図

3 捕獲

くくりわなに捕まったシカが逃げようと走り回ると、U字型フックによりわなのロープが「からまる棒」に巻き付き身動きが取れなくなる（写真2）。なお、シカの脚が入り込んで折れることのないよう脚絡まり防止金具が付いている。

2014年から2017年にかけて4か所で試験を行った結果、9個体のシカを捕獲し、翌朝には全ての個体がからまる棒に完全に絡まり、身動きが取れなくなっていた。絡まるまでの時間が測定できた6個体については、捕獲から絡まるまでの時間は早いもので7分、平均179分であった。

4 効果的な捕獲のコツ

水稻収穫後にひこばえ（水稻切り株から出た芽）が生えた水田等、シカがエサ場に利用する場所に設置する。休耕田等には獣道がないため、ヌカ等で餌付けし、1台のからまる棒に複数個のくくりわなを仕掛ける。シカに場所を覚えられたら移動する。

また、軽トラック等で運搬できる場所に設置することで、見回りや捕獲後の作業が楽になる。



写真2 からまる棒に絡まったシカ